



## Fiery JobFlow

Fiery JobFlow は、プリプレスワークフローを提供するブラウザベースの製品です。この製品を使用すると、オペレーターは、PDF 変換、Preflight、PDF ファイルの修正、高品位イメージ画像処理、書類の面付け、ジョブのチケット発行、承認など、繰り返し行うタスクを定義して自動化できます。

SmartFolder、Dropbox アカウント、SMB、FTP、sFTP の場所から Fiery JobFlow にファイルをインポートできます。インポートしたファイルにワークフローを設定し、Fiery サーバー、Fiery Central プリンターグループ、Dropbox アカウント、SMB、(s) FTP の場所から出力できます。各種モジュールでジョブが処理される際に、E メール通知の送信で最新状況を確認できます。

Fiery JobFlow SmartFolder の詳細については、[Fiery JobFlow のインストール](#)（1 ページ）を参照してください。

Fiery JobFlow アプリケーションは Windows クライアントコンピューターにインストールされ、Fiery JobFlow サーバーとして動作します。

Fiery JobFlow Base は、Fiery JobFlow の無償版であり、Fiery Extended Applications (FEA) 4.3 以上で利用できます。Fiery JobFlow Base は、PDF 変換、Fiery Preflight、高品位画像処理、書類の面付けと、ジョブの送信やアーカイブや出力の多様なオプションをサポートしています。また、別の Fiery JobFlow サーバーで使用するためにワークフローをエクスポートおよびインポートできます。

**メモ：**統合された Fiery サーバーでは、Fiery JobFlow Base は Fiery Productivity Package を Fiery サーバー上でアクティベートする必要があります。

Fiery JobFlow に関する詳細は、[Fiery JobFlow のインストール](#)（1 ページ）を参照してください。システム要件については、<http://resources.efi.com/FieryJobFlow/specifications> を参照してください。

ライセンス版の Fiery JobFlow では、ルールベースのワークフロー、高度なプリフライト、Enfocus PitStop を使用した PDF 編集、クラウドベースの承認プロセス、およびサードパーティ製アプリケーションを使用して PDF にアクションを適用する機能を使用できます。

Fiery JobFlow のこのリリースに関する重要な情報については、[http://help.efi.com/jobflow/jobflow\\_releasenotes222.pdf](http://help.efi.com/jobflow/jobflow_releasenotes222.pdf) で使用上の注意を参照してください。

バージョン 2.2.2

## Fiery JobFlow のインストール

Fiery JobFlow は、Fiery Extended Applications Package に含まれる Fiery Software Manager を使用してインストールします。

Fiery JobFlow のインストールの詳細については、『インストールガイド：Command WorkStation 5.8/Fiery Extended Applications 4.4』および『使用上の注意：Fiery Extended Applications Package 4.4』（<http://help.efi.com/fea/index.html>）を参照してください。

**メモ:** デフォルトでは、ジョブの入力場所は Fiery JobFlow の SmartFolder です。Fiery JobFlow のインストール時に、インストーラーによって、空き領域の多いドライブが自動的に検出され、SmartFolders という名前のフォルダーが作成されます。Fiery JobFlow では、このフォルダー内に、Fiery JobFlow で作成するワークフローごとのフォルダーが作成されます。すべてのユーザーがジョブを送信できるように、SmartFolders はネットワーク上で公開されます。

## Fiery JobFlow ライセンスのアクティベーション

Fiery JobFlow のフルバージョンには、ライセンスおよび有効な電子メールアドレスが必要です。

Fiery JobFlow Base はスタンドアロンの Fiery サーバーでは無料です。統合された Fiery サーバーでは、Fiery Productivity Package をアクティベートして Fiery JobFlow Base を使用する必要があります。Fiery JobFlow Base から Fiery JobFlow へのアップグレードプロセスを開始するには、次の手順を実行します。

- 1 無料の Fiery JobFlow Base をインストールします。
- 2 Fiery JobFlow のライセンスキーを購入します。
- 3 Fiery JobFlow Base にログインし、今すぐアップグレードをクリックします。
- 4 EFI ライセンスサーバーウィンドウの手順に従います。詳細については、『ヘルプ』を参照してください。

EFI ライセンスサーバーはライセンスを管理します。Fiery オプションをアクティベート、アクティベート解除、再アクティベート、および復帰するには、EFI ライセンスサーバーに接続します。ライセンスの管理は、お使いのコンピューターがインターネットに接続されているかどうかによって手順が異なります。

- コンピューターがインターネットに接続されている場合は、情報はコンピューターと EFI ライセンスサーバーの間で自動的に転送されます。
- コンピューターがインターネットに接続されていない場合は、コンピューターと EFI ライセンスサーバーの間で情報を手動で転送する必要があります。

## Fiery JobFlow の使用

Fiery JobFlow はインストール後にサーバーとして機能し、インストールの際に自動配置されるコンピューターデスクトップのショートカットからアクセスできます。

インストール後に初めて Fiery JobFlow を起動すると、システム管理者は管理者パスワードを作成し、Fiery サーバーまたは Fiery Central Server の IP アドレスを入力します。

異なるクライアントコンピューターから Fiery JobFlow サーバーにアクセスするには、Fiery JobFlow がインストールされているコンピューターの IP アドレスまたはドメイン名が必要です。ブラウザーより接続します。サーバーの IP アドレスがわからない場合は、Fiery JobFlow のシステム管理者にお問い合わせください。

**メモ:** インストール手順の際に、Fiery JobFlow インストーラーは推奨ネットワークポート（80）が使用可能かどうかを自動的に確認します。推奨ネットワークポートが使用可能な場合は、次の URL で別のコンピューターから Fiery JobFlow サーバーに接続できます。<http://<IP アドレス>/jobflow/login>。代替ポートが選択されている場合は、次の URL から接続できます。<http://<IP アドレス>:44467/jobflow/login>。

Fiery JobFlow には、次の 4 つのアクセスレベルがあります。システム管理者、オペレーター、ゲスト、および外部レビュアー。システム管理者パスワードは、インストール中に設定されます。

## Fiery JobFlow ワークスペース

ブラウザに、Fiery JobFlow ウィンドウが表示されます。

Fiery JobFlow には次のコンポーネントが含まれています。

- **ワークフロータブ**：ワークフローの新規作成、編集、削除が可能。ワークフローは、使用可能なモジュールを選択して作成
- **ジョブタブ**：ジョブの進捗を監視。実行中のジョブ、エラーが発生しているジョブ、完了したジョブを確認可能。ジョブの内容の表示も可能
- **管理者メニュー**：管理者タスク（アカウント設定、モジュール設定、リソース）にアクセス

無料の Fiery JobFlow Base をお使いの場合、ブラウザには今すぐアップグレードボタンも表示されます。ライセンスが必要なバージョンである Fiery JobFlow にアップグレードする場合、このボタンをクリックします。

Fiery JobFlow のアップデートは、Fiery Software Manager を通して管理されます。これには、Windows タスクバーのアイコンからアクセスできます。アップデートを確認アイコンは、Fiery Software Manager ウィンドウの右上隅にあります。

## ワークフロータブ

ワークフローエリアでは、ワークフローのソートや検索を実行できます。

ワークフローをお気に入りとしてマークできます。また、ワークフローのクエリを保存して、頻繁に使用するワークフローやジョブを管理したりアクセスできます。お気に入りおよび保存されている検索は、ユーザごとに保存されます。

ワークフローには次の 2 つのタブがあります。すべてのワークフローとお気に入りのワークフロー。すべてのワークフローには、作成したすべてのワークフローが表示されます。お気に入りのワークフローには、お気に入りとしてマークしたワークフローが表示されます。ワークフローをお気に入りとして選択するには、ワークフロー名の横にある星をクリックします。お気に入りリストからワークフローを削除するには、ワークフロー名の横にある星をオフにします。

どちらのタブでも、ワークフローはワークフロー名、モジュール（ワークフロー内のモジュール）、および作成日によってリストされます。ワークフロー名のアルファベット順（昇順または降順）、および作成日（昇順または降順）によってソートできます。また、ワークフローを検索し、検索を保存することもできます。

各ワークフロー名の横にあるチェック ボックスを使用して、ワークフローをエクスポートします機能に 1 つまたは複数のワークフローを選択できます。各ワークフローについて、複製、削除、またはエクスポートを実行できます。

## ユーザー権限

Fiery JobFlow のユーザー権限により、サーバーへの異なるアクセスレベルを得ることができます。

- **システム管理者**：すべての管理者設定の指定、リソースのアップロードと管理、ワークフローの作成、すべてのユーザーのジョブの編集や削除など、Fiery JobFlow のすべての機能にフルアクセスできます。さらに、システム管理者は Fiery JobFlow 内のジョブを承認できます。

システム管理者のパスワードは、インストールおよびアクティベーション手順の際に設定されます。

- **オペレーター**：ジョブの送信、ワークフローの作成、作成したワークフローの編集または削除を行うことができます。オペレーターはジョブを削除することもできます。オペレーターは、管理者メニューでリソースや他の設定を表示できますが、変更を加えることはできません。

- ゲスト：ジョブの送信のほか、Fiery JobFlow サーバーでジョブの進行状況の表示を行うことができます。ゲストには管理者メニューが表示されません。
- 外部レビュアー：任意の場所でジョブの承認または拒否を行うことができます。外部レビュアーは、Fiery JobFlow サーバーを直接使用することはできませんが、Fiery JobFlow 管理者から E メールでジョブのレビュー依頼を受け取ります。外部レビュアーは、ジョブのコンテンツとリンクされた Preflight レポートを確認して、ジョブを承認または却下できます。

**メモ：**Fiery JobFlow サーバーに直接アクセスできるすべてのユーザーには、内部レビュアーとして指定できます。

## Fiery JobFlow の設定

Fiery JobFlow システム管理者は、管理者メニューから Fiery JobFlow サーバーを設定します。

管理者メニューでは、次のタブにアクセスできます。

- アカウント設定。プロフィール、通知、ユーザー管理、サービス、場所、バックアップ/復帰設定にアクセスできます。
- モジュール設定。各モジュールの設定にアクセスできます。
- リソース。システム管理者は、Fiery Impose テンプレート、Image Enhance Visual Editor プリセット、カスタムプリフライトプロファイル、アクションリスト、および変数セットを Enfocus PitStop Pro からインポートすることができます。Enfocus のリソースでは、Fiery JobFlow のライセンス版が必要です。Fiery Impose テンプレートを保存して使用するには、クライアントコンピューターで Fiery Impose ライセンスを有効にする必要があります。
- サインアウト。ログインウィンドウに戻ります。

## アカウント設定

管理者は、Fiery JobFlow のアカウント設定を行います。

- 1 Fiery JobFlow サーバーに管理者としてログインします。
- 2 Fiery JobFlow ウィンドウ右上の管理者の隣の矢印をクリックします。
- 3 アカウント設定を選択します。
- 4 必要に応じて各タブをクリックし、プロフィール、通知、ユーザー管理、サービス、場所、およびバックアップ/復帰を指定します。

## プロフィール

プロフィール設定には、管理者用のユーザー権限設定とブラウザの言語設定があります。

- **アカウント情報**：管理者は、Fiery JobFlow の初期設定処理で入力したアカウント情報の表示と編集が可能。通知メールアドレスを設定するためには、管理者が EFI Passport で認証されている必要がある。初期設定後は、E メール、名前、電話番号のすべての変更が可能。このアカウント情報は、Fiery JobFlow サーバー管理者用

**メモ**：管理者としてログインしているすべてのユーザーがアカウント情報を変更できます。管理者ユーザーは複数設けることができます。

- **パスワード**：管理者パスワードを変更可能
- **言語**：管理者は、ブラウザのデフォルトの言語を使用することも、別の言語を選択することも選択可能

## 通知

E メール通知を送信するタイミング（どのワークフローステップで）を指定できます。これらの通知は、Fiery JobFlow に送信されたすべてのジョブで使用されます。

システム管理者は、通知に E メールアドレスを入力する必要があります。システム管理者は、初めて通知設定ウィンドウにアクセスしたときに E メールアドレスを入力するよう求められます。提供された電子メールにアクティベーションコードが送信され、システム管理者はそれをアクティベーションコードを入力フィールドに入力します。システム管理者が E メール通知を問題なく有効にできたら、以下に説明するオプションが利用可能になります。

- **送信**：最大 4 つの電子メールアドレスを指定できます。
- **ジョブアクティビティ**：上記の送信領域で指定した電子メールアドレスに、Fiery JobFlow が電子メールを送信するワークフローステップを指定できます。

また、右上隅のデフォルト設定に復帰ボタンをクリックすると、デフォルト設定に復帰させることもできます。

## ユーザー管理

どのユーザーが Fiery JobFlow にアクセスするかを管理します。

ユーザーを追加するには、新規ユーザーを追加ボタンをクリックします。次に、以下を指定します。

- **ユーザー名**：ユーザーの名前を入力
- **役割を選択**：管理者、オペレーター、ゲスト、外部レビュアーのいずれかを選択
- **E メール ID**：ユーザーの E メールアドレスを入力

確認の通知メールがユーザーに送信される

ユーザー名や役割を編集するには、編集ボタンをクリックします。ユーザーの E メール ID は編集できません。

ユーザーを削除するには、削除ボタンをクリックします。

## サービス

Enfocus Monotype Baseline サービスおよび SMTP 設定を管理し、ジョブの自動削除のスケジュールを設定します。

- **Monotype Baseline サービス**：Enfocus は、PitStop ユーザー向けの不足フォントサービスではありません。Fiery JobFlow ユーザーが Monotype Baseline サービスに登録した場合、このサービスにより不足フォントが自動的に検索され、それが Fiery JobFlow に送信され、PDF に統合されます。Fiery JobFlow より、アカウントの作成および管理を行うリンクが提供されます。登録すると、認証キーが届きます。デフォルトでは、Monotype Baseline サービスを使用チェックボックスはオンになっていません。サービスを有効にするには、チェックボックスをオンにします。
- **SMTP**：E メール通知に対して送信 SMTP サーバーを設定します。ユーザー独自の E メールサーバーから通知を送信する場合、サーバーはここで設定されます。それ以外の場合は、通知は EFI 通知サービスを介して送信されます。
- **プロキシ設定**：ファイアウォールを越えて透過的に通信するようプロキシサーバーを設定し、有効にします。
- **ジョブの削除**：必要に応じて、1、3、5、15、30、または 60 日ごとにジョブの自動削除のスケジュールを設定します。

## 場所

Fiery JobFlow の場所を追加すると、ジョブの送信、アーカイブ、出力を行う手段を追加で作成できます。

Fiery JobFlow のインストール時に、空き領域の多い Fiery JobFlow サーバードライブに SmartFolders という名前のルートフォルダーが自動的に設定されます。ユーザーがワークフローを作成すると、Fiery JobFlow は自動的にルートフォルダーの下にワークフローのサブフォルダーを作成します。SmartFolders は、ジョブを送信するためのデフォルトの場所です。1つのジョブ、または複数のジョブの含まれるアーカイブ (.zip ファイル) を送信するには、コンピューターのデスクトップからブラウザへのドラッグ&ドロップ操作で行うことができます。

SMB、FTP、sFTP、または Fiery の場所を追加する場合には、テスト接続ボタンを選択して、接続が正しく確立されていることを確認します。場所の詳細情報および必要なユーザー名とパスワードは、各サービスの管理者に確認してください。

- **SMB**：SMB の場所を追加する。
- **FTP**：FTP の場所を追加する。Fiery JobFlow によってデフォルトのポートが割り当てられる。
- **sFTP**：セキュア FTP の場所を追加する。Fiery JobFlow によってデフォルトのポートが割り当てられる。
- **Dropbox**：Fiery JobFlow では、同時に複数の Dropbox アカウントに接続可能。Fiery JobFlow サーバーの管理者がプライマリ Dropbox アカウントを設定すると、いつでもどこでも、外部レビュアーによるジョブの承認や、内部レビュアーによるジョブの承認と却下にこれを使用できます。
- **Fiery**：Fiery サーバーまたは Fiery Central サーバーを出力場所として追加する。

## バックアップ/復帰

設定、リソース、ワークフローはバックアップして復帰できますが、ジョブは復帰できません。

バックアップの場所を指定し、アカウント設定のタブからバックアップと復帰の両方を実行できます。バックアップ復帰の処理を行うと、Fiery JobFlow の現在のジョブがすべて削除されます。

## バックアップ

- 場所の選択。Fiery JobFlow の既存の場所(SMB、FTP、sFTP または Dropbox)から選択します。各場所で許可されるバックアップの最大数は 30 です。ある場所で 31 番目のバックアップが開始されると、最も古いバックアップが削除されます。バックアップは、場所が選択されていると 1 日に 1 回自動的に行われます。バックアップ先の場所に最低 50MB の空き容量があることを確認してください。
- 今すぐバックアップボタン。アカウント設定、モジュール設定、リソース、ワークフローを手動でバックアップする場合にクリックします。

## 復帰

復帰オプション機能には、次の選択肢があります。

- 特定フォルダから復帰。特定フォルダから復帰するには、バックアップファイルを選択します。
- 最新のバックアップから復帰。選択した場所にある、日付の順に並べ替えられたバックアップの一覧から選択します。表の新しい列には、バックアップファイルの名前とそれぞれのファイルの設定の詳細が表示されます。
- 復帰ボタン。バックアップ先の場所を選択したら、クリックして復帰を開始します。

## モジュール設定

システム管理者は設定を Fiery JobFlow モジュールのデフォルトから変更できます。

Fiery Preflight、Image Enhance、Impose、および出力モジュールは、無料版の Fiery JobFlow Base とライセンス版の Fiery JobFlow の両方で使用できます。Fiery Preflight モジュールは、Fiery Graphic Arts Package、Premium Edition のライセンスが Fiery サーバー上でアクティベートされない限り機能しません。Impose モジュールでは、Fiery JobFlow がインストールされているコンピューターで、Fiery Impose ライセンスがアクティベートされている必要があります。統合された Fiery サーバー上では Fiery Productivity Package の有効なライセンスが必要なため、Fiery JobFlow Base は統合された Fiery サーバーでは無料ではありません。統合された Fiery サーバー上で Fiery Productivity Package ライセンスがアクティベートされていても、Fiery Preflight は統合された Fiery サーバーでは使用できません。

- **Fiery Preflight** : Fiery Preflight プリセットを選択します。表示されるのは、Fiery JobFlow が接続されている Fiery サーバーで設定されているプリセットです。

**メモ** : Fiery Preflight を使用するには、Fiery Graphic Arts Package、Premium Edition が Fiery サーバーでアクティベートされている必要があります。

- **Image Enhance** : Fiery Image Enhance Visual Editor からインポートされたプリセットのリストから選択します。
- **Impose** : Fiery Impose からインポートされたテンプレートのリストから選択します。

**メモ** : Fiery Impose が Fiery JobFlow サーバーと同じコンピューター上でアクティベートおよびライセンス認証されている場合、デフォルトおよびカスタムの両方のテンプレートから選択できます。Fiery Impose がアクティベートされていない場合は、デフォルトテンプレートの一覧から選択できますが、それらのテンプレートを使用してジョブを印刷すると、印刷された出力にウォーターマークが表示されます。

- **出力** : Fiery サーバー、Fiery Central プリンターグループ、Dropbox アカウント、SMB、または (s) FTP の場所から選択します。Fiery サーバーを選択した場合は、ジョブプリセットを選択します。

**メモ** : 出力で表示されるように場所をセットアップする必要があります。

Approve、Correct、Connect、Preflight モジュールは、ライセンス版の Fiery JobFlow でのみ使用できます。

- **Approve** : 自動リマインダーをレビューアーに送信するスケジュールを設定します。毎日、2 日ごと、3 日ごと、あるいはなしから選択します。5 回のリマインダー後にレビューアーによる返信がないと、そのジョブはキャンセルされます。
- **Correct** : Correct モジュール用のアクションのリストから選択します。
- **Connect** : サードパーティ製アプリケーションを使用して、PDF へのアクションを編集または適用します。
- **Preflight** : プロファイルメニューから目的の Preflight テンプレートを選択し、ジョブに適用します。

**メモ** : 管理者は、Preflight および Correct モジュールで使用するために、カスタムの Enfocus PitStop Pro スマートプロファイル、アクションリスト、および変数セットをインポートすることもできます。

## リソースのインポート

システム管理者は、Fiery Impose テンプレート、Image Enhance Visual Editor プリセット、カスタムスマートプリフライトプロファイル、アクションリスト、および変数セットを、Enfocus PitStop Pro からドラッグアンドドロップ操作により、またはファイルが保存されている場所に移動することでインポートできます。

Enfocus PitStop Pro からスマートプリフライトプロファイル、アクションリスト、および変数セットをインポートするには、ライセンス版の Fiery JobFlow を使用している必要があります。Fiery Impose テンプレートおよび Image Enhance Visual Editor プリセットは、Fiery JobFlow Base と Fiery JobFlow の両方で使用できます。

**メモ** : Fiery Impose テンプレートを使用するには、デフォルトであっても、コンピューターでライセンスをアクティベートする必要があります。

Fiery Impose テンプレートおよび Image Enhance Visual Editor プリセットは、Command WorkStation がインストールされているコンピューターの次の場所に保存されています。

- Windows コンピューターの場合。
  - Image Enhance Visual Editor プリセット : **C:\ProgramData\Image Enhance Visual Editor\Preset**
  - Fiery Impose テンプレート : **C:\Users\logged-in-user\Documents\Impose\template**  
これはデフォルトの場所で、Command WorkStation の環境設定でユーザーが変更できます。
- Mac OS コンピューターの場合。
  - Image Enhance Visual Editor プリセット : **Applications/Fiery/Image Enhance Visual Editor/Image Enhance Visual Editor.app**  
上記の場所を右クリックし、パッケージコンテンツを表示する > コンテンツ/共有サポート/プリセットを順に選択します。
  - Fiery Impose テンプレート : **\Users\logged-in-user\Documents\Impose\template**  
これはデフォルトの場所で、Command WorkStation の環境設定でユーザーが変更できます。

プリフライトプロファイル、アクションリスト、および変数セットは、Fiery JobFlow にインポートする前に、PitStop Pro で作成してエクスポートする必要があります。PitStop Pro の標準プリフライトプロファイルおよびアクションリストは、Preflight および Correct モジュールにデフォルトで一覧になっています。

- 1 システム管理者として Fiery JobFlow にログインします。
- 2 Fiery JobFlow ウィンドウの右上にある管理者の横にある矢印をクリックします。

- 3 リソースを選択します。
- 4 次のいずれかを行います。
  - アップロードするファイルをドロップしてください(またはここをクリックしてください)をクリックし、リソースの場所に移動して開くをクリックします。
  - インポートするファイルを特定し、アップロードするファイルをドロップしてください(またはここをクリックしてください)領域にドラッグします。

ファイル形式が間違っている場合は、そのファイルタイプがサポートされていないというメッセージが表示されます。ファイルは、次の PitStop Pro ファイルタイプの 1 つとして保存する必要があります。 .ppp、.eal、.evs。1 回のアップロードでこれらのファイルタイプを組み合わせることができます。

## ワークフローの作成

ユーザーはモジュールを追加してワークフローを作成します。入力ソース、変換、出力の各モジュールは自動的にワークフローに追加されます。

また、Connect、Fiery Preflight、Preflight、Image Enhance、Impose、Correct、Approve のモジュールを追加することもできます。詳細については、[モジュールについて](#) (10 ページ) を参照してください。

ワークフローは、ワークフロー内の各モジュールを編集したり、モジュールの順序を変更したりして編集できます。

- 1 ワークフロータブのワークフローヘッダーの隣にあるプラス記号 (+) をクリックします。
- 2 ワークフローの名前を入力します。
- 3 作成をクリックします。
- 4 入力ソースの編集ボタンをクリックし、場所の一覧から場所を選択します。  
最大 4 つの入力ソースを追加できます。  
ワークフローの保存場所が表示されます。
- 5 ネイティブジョブを Fiery JobFlow がサードパーティ製アプリケーションを使用してサポートするフォーマットに変換するには、Connect モジュールを入力ソースの後に追加します。スクリプトまたはホットフォルダーのパラメーターを指定します。
- 6 変換モジュールの下のプラス記号 (+) をクリックし、Fiery Preflight、Preflight、Image Enhance、Impose、Connect、Correct、Approve のいずれかのモジュールを追加します。  
情報については、[プリフライト設定](#) (14 ページ)、[修正の設定](#) (15 ページ)、[面付けの設定](#) (15 ページ)、[Connect 設定](#) (16 ページ)、および[承認設定](#) (17 ページ) を参照してください。
- 7 それぞれの設定を指定し、保存をクリックします。
- 8 出力ペインで、Fiery サーバー、Dropbox アカウント、SMB、(s) FTP の場所から選択します。  
Fiery サーバーを選択した場合は、プリセットを選択し、保存をクリックします。
- 9 オプションの手順として、各モジュールにルールを追加して、ジョブの状況(合格または不合格)に基づいて特定のアクションをトリガーできます。使用可能なルールは、ジョブをアーカイブ、Eメールを送信、ジョブを移動、ジョブをコピー、およびスクリプトを実行です。ルールを設定するには、追加をクリックし、トリガー (If) とアクション (Then) を定義し、保存をクリックします。

- 10** ワークフローを編集するには、ワークフロータブでワークフロー名をクリックして編集ウィンドウを開きます。  
次に、モジュールを選択し、編集アイコンまたは削除アイコンをクリックします。
- 11** ワークフロー内のモジュールの順序を変更するには、編集ウィンドウの右側のペインでモジュールを選択し、目的の新しい場所へドラッグします。

## モジュールについて

Fiery JobFlow で作成する各ワークフローは、ジョブファイルに特定のアクションを実行する一連のモジュールで構成されます。さまざまな種類のジョブに複数のワークフローを作成でき、それぞれに異なるモジュールグループを含めることができます。

Fiery JobFlow では次のモジュールを使用できます。

**Fiery Preflight** : Fiery Preflight プリセットを使用すると、印刷エラーがないよう印刷前にジョブを確認できます。Fiery JobFlow は、出力デバイスとして指定されている Fiery サーバーで使用可能なすべての Preflight プリセットを検出して表示します。プリセットが 1 つも設定されていない場合は、デフォルトプリセットが表示されます。

**入力ソース** : ワークフローの入力ソースとして使用します。さまざまな場所からファイルをインポートできます。SMB、FTP または sFTP、Dropbox アカウント、あるいは Fiery JobFlow サーバーに設定されている SmartFolder からインポートできます。単一のジョブ、複数のファイル、またはアーカイブ (.zip ファイル) をコンピューターのデスクトップからブラウザウィンドウ内のワークフロー名へドラッグ&ドロップ操作して送信することもできます。

**Approve** : ユーザーが外部および内部レビュアーを割り当てて、ジョブを承認できるようにします。すべてのレビュアーがリンクの記載された E メール通知を受け取るので、ジョブをレビューして Preflight レポートを確認できます。一度そのようにすると、ジョブを承認または拒否することができます。内部および外部レビュアーの承認プロセスは似ていますが、唯一の違いは、内部 Fiery JobFlow レビューでは Fiery JobFlow サーバーのジョブへの直接リンクを取得できるのに対し、外部レビューでは Dropbox の場所へのリンクを取得できます。Fiery JobFlow 内からジョブを承認できるのは、システム管理者になっているユーザーだけです。これを行うには、ジョブタブの承認待ちのジョブセクションに移動し、Approve アイコンをクリックします。

**変換** : さまざまな種類のファイルを処理して Adobe PDF ファイルに変換します。次の種類のファイルをサポートしています。Microsoft Word/PowerPoint/Excel/Publisher、GIF、PICT、DIB、JPEG、PNG、TIFF、BMP、PostScript です。

**Preflight** : Enfocus PitStop PDF プロファイルに基づいて受信ジョブを検査します。プリフライトでは、使用する PitStop PDF プロファイルで定義されている基準に PDF ファイルが従っているかどうかを確認します。プリフライトプロファイルは、プロファイルメニューからプロファイル名を選択すると表示できます。標準のプリフライトプロファイルを選択するか、Enfocus PitStop Pro で作成した変数セットをスマートプリフライトプロファイルに適用することができます。

**Image Enhance** : PDF ドキュメント内の画像を自動的に補正します。Fiery JobFlow サーバーにインストールされている Command WorkStation の Image Enhance Visual Editor のプリセットを選択します。

**Impose** : 各種の面付けテンプレートをジョブに適用します。Fiery Impose テンプレートを使用するには、Fiery JobFlow と同じコンピューターに Command WorkStation v5.5 以上がインストールされている必要があります。ワークフローでデフォルトおよびカスタムの面付けテンプレートを適用して使用できるようにするには、Fiery Impose ライセンスをアクティベートしておく必要があります。

**Correct** : 受信ジョブに Enfocus PitStop のアクションを適用します。ワークフローに追加されたアクションは、ページ番号の追加、色の変換、画像の解像度の調整などの修正を自動的に適用するために使用されます。標準のアクションリストから選択するか、Enfocus PitStop Pro で作成した変数セットをスマートアクションリストに適用することができます。

**Connect**：スクリプトまたはホットフォルダー経由でサードパーティのアプリケーションに接続できます。次のいずれかの操作を行います。

- ネイティブジョブを Fiery JobFlow でサポートされるフォーマットに変換します。これを行うには、Connect をワークフロー（入力直後、ただし変換より前）に追加します。
- ワークフローの通常のステップとして PDF ジョブを変更します。これを行うには、Connect をワークフローの任意の位置に追加します。

**メモ**：Connect モジュールが使用するホットフォルダーは Fiery Hot Folders ではありません。

**出力**：セットアップ時に選択した Fiery サーバーまたは Fiery Central のプリンターグループ、Dropbox アカウント、SMB、(s) FTP のいずれかの場所から選択できます。選択した Fiery サーバーまたは Fiery Central のプリンターグループの場合、表示されるプリセットのリストから選択できます。これらのプリセットは、選択した Fiery サーバーまたは Fiery Central のプリンターグループのサーバープリセットです。

管理者は、モジュール設定を指定および設定できます。[モジュール設定](#)（7 ページ）を参照してください。

## ワークフローの複製

任意のワークフローを複製し、変更して、新規ワークフローを作成できます。この機能は、異なるジョブに対してマイナーなバリエーションがある標準的なデフォルトワークフローがある環境で便利です。

- 1 ワークフロータブをクリックします。
- 2 ワークフローのヘッダーのワークフローの複製アイコンをクリックします。
- 3 ワークフローの名前を入力して作成をクリックします。

これでワークフローを編集できるようになりました。

## モジュールの複製

ワークフロー内でモジュールを複製することができます。これにより、同じ設定を使用することが判明した場合には時間を節約できます。

- 1 ワークフロータブをクリックします。
- 2 ワークフローを開きます。
- 3 複製するモジュールのペインをクリックします。
- 4 複製アイコンをクリックします。

**メモ**：すべてのモジュールを複製することはできません。モジュールを複製できない場合、複製アイコンは表示されません。

## ワークフローのエクスポートとインポート

Fiery JobFlow ワークフローを、別の Fiery JobFlow サーバーで使用するためにエクスポートおよびインポートできます。

ワークフローは圧縮（zip）フォルダーとしてエクスポートおよびインポートされ、これにはジョブの印刷に必要なすべてのリソースが含まれます。1つの操作で単一のワークフローまたは複数のワークフローをエクスポートまたはインポートできます。

- 1 単一のワークフローをエクスポートするには、ワークフロータブでそのワークフローのチェックボックスをオンにするか、ワークフロー行にカーソルを置いてワークフローをエクスポートしますをクリックします。  
ワークフローが zip フォルダーとしてダウンロードフォルダーにダウンロードされます。このフォルダーを開くか、ダウンロードした場所を見ることができます。
- 2 複数のワークフローをエクスポートするには、それらのワークフローのチェックボックスをオンにし、ヘッダー行のワークフローをエクスポートしますアイコンをクリックします。  
ワークフローは zip フォルダーとしてダウンロードされます。
- 3 単一または複数のワークフローをインポートするには、ヘッダー行のワークフローをインポートしますアイコンをクリックします。
- 4 zip されたワークフローフォルダーが位置する場所を参照し、ファイルを選択して開くをクリックします。  
インポートするワークフローに既存のものと同じ名前のリソースが含まれている場合は、Fiery JobFlow サーバー上のリソースを置き換えるか、インポートをキャンセルするか、続行するかを尋ねられます。  
続行を選択した場合、ワークフローはインポートされますが、リソースは置き換えられません。  
インポートするワークフローが既存のワークフローと同じ名前である場合、インポートされたワークフローは名前が「<ワークフロー名>のコピー」に変更されます。

## ワークフローへのルールの追加

ワークフロー内のモジュールにルールを追加することができます。

出力モジュール以外の各モジュールには、モジュールが失敗するか成功するかに応じて実行されるアクションを設定できます。

次のようなルールを追加できます。

- Eメールを送信：ユーザーを選択する。
- ジョブをアーカイブ：場所を選択する。
- スクリプトを実行：スクリプトの位置とオプションの引数を提供する。
- ジョブをコピー：ジョブのコピー先となるワークフローを選択する。変換、Impose、高品位イメージ、Fiery Preflight のいずれかを選択する。
- ジョブを移動：ジョブの移動先となるワークフローを選択する。変換、Impose、高品位イメージ、Fiery Preflight のいずれかを選択する。

ジョブを移動アクションは、Enfocus PitStop プリフライトプロファイルまたはアクションリストを使用する Correct または Preflight モジュールが失敗または成功したジョブで使用できます。失敗した確認に関係なくワークフローに沿ってジョブを進めるには、失敗した Preflight および Correct の結果で無視して続行アクションを設定します。

## Rules のスクリプト

モジュール用のルールとして、スクリプトを実行が追加されました。

Fiery JobFlow Rules のスクリプトを使用すると、以下のことを行うことができます。

- Fiery JobFlow ジョブを Fiery JobFlow Locations でサポートされていない場所にアーカイブする。
- Eメール通知の使用を希望しない顧客に、サードパーティ製ソリューションを使用して通知を送信します。

Rules のスクリプトの規則は、次の 1 つの例外を除いて Connect モジュールのスクリプトの場合と同じです。Fiery JobFlow では、ワークフローで追加の処理を必要とする出力がスクリプトから生成されることは予想されていません。

Fiery JobFlow では、Rules スクリプト用に以下の引数が提供されています。

- 1 入力場所：Fiery JobFlow がファイルを処理のために使用可能にする一時的な場所。
- 2 ジョブ名：Fiery JobFlow に表示されるジョブ名。
- 3 ワークフロー：スクリプトが開始されたワークフローの名前。
- 4 プリフライトレポート：そのワークフローで生成された最後のプリフライトレポートの場所。

サンプルのスクリプトについては、<http://resources.efi.com/jobflow/library> をご覧ください。

## 入力ソース

Fiery JobFlow では、さまざまな入力ソースをワークフローに使用できます。

さまざまな場所からファイルをインポートできます。SMB、FTP または sFTP、Dropbox アカウント、あるいは Fiery JobFlow サーバーに設定されている SmartFolder からインポートできます。単一のジョブ、複数のファイル、またはアーカイブ (.zip ファイル) をコンピューターのデスクトップからブラウザウィンドウ内のワークフロー名へドラッグ&ドロップ操作して送信することもできます。入力ソースは、ワークフロー内で SmartFolder として表示されます。複数のジョブが含まれるアーカイブまたはフォルダーを送信すると、Fiery JobFlow ではそれらのジョブがマージされるので注意してください。ジョブのマージは、ファイル名/ジョブ名のアルファベット順に行われます。

複数のジョブが含まれるアーカイブファイルは、すべての入力ソースに送信できます。複数のジョブが含まれるフォルダーは、Dropbox 以外の入力ソースに送信できます。

SMB、FTP または sFTP、Dropbox の場所は Fiery JobFlow 管理者が設定する必要があり、**管理者 > アカウント設定 > 場所**で各種類について複数の場所を設定できます。

SmartFolder は、特定のワークフローにジョブを送信するための入力キューの役割をするフォルダーです。ワークフローと SmartFolder は 1 対 1 で対応します。各 SmartFolder は、Fiery JobFlow のインストール時に自動的に設定される「SmartFolders」というルートフォルダーの下に作成されます。

## Fiery Preflight

Fiery Preflight を使用すると、印刷前にジョブをチェックし、印刷エラーを低減して無駄なコストを削減することができます。Fiery Preflight では、ジョブの印刷が正しく行われ、選択したプリンターで予想通りの印刷結果が得られるようにするために、エラーが発生しやすい領域をチェックできます。

Fiery Preflight では、エラーだけでなく、セキュリティ設定、ページサイズ、色空間などジョブに関する情報のレポートも生成されます。

Fiery Preflight の設定は、プリセットとして保存できます。Command WorkStation で Fiery Preflight のプリセットを設定して、チェックするエラーのカテゴリーとエラーのレポート方法を指定することができます。接続先の Fiery サーバーに設定されているすべてのプリセットが Fiery JobFlow に表示されます。

Fiery Preflight では次のファイル形式がサポートされています。PostScript、PDF、EPS。

TIFF および PCL ファイル形式は Fiery Preflight でサポートされていません。

Fiery Preflight では、次のカテゴリーのエラーをチェックできます。

- フォント - フォント不足、および Courier フォントの置換。
- スポットカラー - 不足しているスポットカラー。不足しているスポットカラーは、Command WorkStation のスポットカラーで追加できる。
- 画像解像度 - 指定値以下の画像の解像度。
- ヘアライン - 指定値以下のヘアライン幅。
- オーバープリント - オーバープリント。
- PostScript - PostScript エラー。

**メモ：** Fiery Preflight エラーでジョブがエラーになった場合、そのジョブが割り込みジョブのときやそのエラーが出力を中止するほど重要でないときは、エラーを無視することができます。そのようなジョブは、Fiery JobFlow ウィンドウのジョブタブのエラージョブペインに表示されます。無視をクリックすると、エラーが無視されてジョブが完了します。モジュールに移動ルールまたはコピールールが定義されている場合は、無視オプションは表示されません。無視オプションは、Correct モジュールと Preflight モジュールでも同じ制約付きで使用可能です。

## プリフライト設定

Enfocus PitStop PDF プロファイルを適用して受信ジョブを検査します。プリフライトでは、使用する PitStop PDF プロファイルで定義されている基準に PDF ファイルが従っているかどうかを確認します。

プリフライトプロファイルは、「プロファイル」メニューからプロファイル名を選択すると表示できます。

Monotype Baseline Service が設定されている場合は、「Preflight」モジュールで「Monotype Baseline Service で自動的に欠落フォントを確認する」オプションを使用できます。このオプションを選択すると、Fiery JobFlow によって Monotype サービスから欠落フォントが自動的にダウンロードされます。

PitStop Pro の変数は、定数またはルールベースのいずれかです。定数の変数は、文字列、数値、測定値、yes/no 値または on/off 値です。ルールベースの変数では、別のプリフライトチェックで値の変化を決定する定数の変数を使用できます。たとえば、変数の定義が出力の種類であり、可能な値が digital、offset など複数ある場合には、その値に応じて画像の解像度が変わります。

**メモ：**「Preflight」モジュールでジョブが失敗した場合、そのエラーを無視することを選択できます。そのようなジョブは、Fiery JobFlow ウィンドウのジョブタブのエラージョブペインに表示されます。上書きをクリックすると、エラーが上書きされてジョブが完了します。モジュールに移動ルールまたはコピールールが定義されている場合は、上書きオプションは表示されません。

## スマートプリフライト設定の適用

スマートプリフライトプロファイルも使用できます。

スマートプリフライトを使用するには、プリフライトプロファイルで使用する変数セットを作成する必要があります。

変数セットは、Fiery JobFlow にアップロードできる編集可能なファイル形式で保存された一連の変数です。必要な数だけ変数セットを定義することができ、各変数セットには必要な数の変数を含めることができます。ただし、一度にアクティベートできるのは 1 つの変数セットのみです。

- 1 ワークフロータブで、自分のワークフローを選択して編集アイコンをクリックします。
- 2 新しいモジュールを追加するモジュール名の下にあるプラス記号をクリックします。
- 3 モジュールの追加領域で、Preflight を選択します。

- 4 プロファイルドロップダウンメニューから、スマートプリフライトプロファイルを選択します。  
すべてのスマートプリフライトプロファイルは、カスタムスマート PDF プロファイルの見出しの下に表示されます。Fiery JobFlow にはサンプルプロファイル、スマートプリフライト - PitStop Pro v1.1 があります。
- 5 表示される変数セットに含まれる変数を変更するには、変数を変更をクリックします。  
変数セットは、ブール値の選択、単純な数値またはテキスト値、あるいは変数の一覧で構成されます。ドロップダウンメニューがある場合はそれを選択して変数を変更するか、テキストフィールドにコンテンツを入力します。変数の説明を表示するには、テキストフィールドにカーソルを置きます。
- 6 必要な変数を変更し、保存をクリックします。
- 7 追加をクリックします。

## 面付けの設定

Fiery Impose から、デフォルトまたはカスタムの面付けテンプレートを追加します。

テンプレートにアクセスするには、<http://www.efi.com/cws5> で入手可能な最新バージョンの Command WorkStation を Fiery JobFlow サーバーと同じコンピューターにインストールし、Fiery Impose ライセンスを有効にする必要があります。

**メモ：** Fiery Impose のデモバージョンには、Command WorkStation ソフトウェアがインストールされていません。

以下の一覧は、Fiery Impose から入手可能なすべてのデフォルトテンプレートです。

普通

- 1-up フルブリード

製本

- 2-up 無線とじ
- 2-up 中とじ
- 4-up 四つ折り

ギャングアップ

- 3-up 巻き三つ折り
- 4-up 内巻き四つ折り
- 4-up Z 折り

## 修正の設定

受信ジョブに Enfocus PitStop のアクションを適用します。ワークフローに追加されたアクションは、ページ番号の追加、色の変換、画像の解像度の調整などの修正を自動的に適用するために使用されます。

Monotype Baseline Service が設定されている場合は、Correct モジュールで Monotype Baseline Service で自動的に欠落フォントを確認するオプションを使用できます。このオプションを選択すると、Fiery JobFlow によって Monotype サービスから欠落フォントが自動的にダウンロードされます。

PitStop Pro の変数は、定数またはルールベースのいずれかです。定数の変数は、文字列、数値、測定値、yes/no 値または on/off 値です。ルールベースの変数では、別のプリフライトチェックで値の変化を決定する定数

の変数を使用できます。たとえば、変数の定義が出力の種類であり、可能な値が digital、offset など複数ある場合には、その値に応じて画像の解像度が変わります。

**メモ:**「Correct」モジュールでジョブが失敗した場合、そのエラーを上書きすることを選択できます。そのようなジョブは、Fiery JobFlow ウィンドウのジョブタブのエラージョブペインに表示されます。上書きをクリックすると、エラーが上書きされてジョブが完了します。モジュールに移動ルールまたはコピールールが定義されている場合は、上書きオプションは表示されません。

## スマートアクションリスト設定の適用

スマートアクションリストも使用できます。

スマートアクションリストを使用するには、アクションリストで使用する変数セットを作成する必要があります。

変数セットは、Fiery JobFlow にアップロードできる編集可能なファイル形式で保存された一連の変数です。必要な数だけ変数セットを定義することができ、各変数セットには必要な数の変数を含めることができます。ただし、一度にアクティベートできるのは 1 つの変数セットのみです。

- 1 ワークフロータブで、自分のワークフローを選択して編集アイコンをクリックします。
- 2 新しいモジュールを追加するモジュール名の下にあるプラス記号をクリックします。
- 3 モジュールの追加領域で、Correct を選択します。
- 4 アクションドロップダウンメニューから、スマートアクションリストを選択します。

すべてのスマートアクションリストは、カスタムスマートアクションリストの見出しの下に表示されます。Fiery JobFlow には、サンプルアクション一覧があります。

- 5 表示される変数セットに含まれる変数を変更するには、変数を変更をクリックします。

変数セットは、ブール値の選択、単純な数値またはテキスト値、あるいは変数の一覧で構成されます。ドロップダウンメニューがある場合はそれを選択して変数を変更するか、テキストフィールドにコンテンツを入力します。変数の説明を表示するには、テキストフィールドにカーソルを置きます。変更できない変数は定数です。

- 6 必要な変数を変更し、保存をクリックします。
- 7 追加をクリックします。

## Connect 設定

Fiery JobFlow ワークフローで PDF にアクションを適用するサードパーティ製アプリケーションスクリプトまたはホットフォルダーの場所を指定します。

例えば、サードパーティ製アプリケーションを使用して、イメージを強調したり、CorelDraw のような別のアプリケーションで作成されたドキュメントを PDF に変換したりできます。

**メモ:** スクリプト作成では、ユーザーがある特定の技術および知識レベルを持っていることが想定されています。Connect モジュールは、スクリプト作成の基本原則をよく知っていて引数のような概念を理解しているユーザーを対象としています。不完全に作成されたスクリプトの結果として発生した可能性のあるあらゆるエラーについて、当社は責任を負いません。スキルのあるユーザーが問題をトラブルシューティングできるように、Fiery JobFlow ではエラーの発生時にログが提供されます。

Fiery JobFlow では、単純なスクリプトのサンプルと引数が提供されますが、スクリプトの作成方法に関する情報は提供されません。サンプルを見るには、<http://resources.efi.com/jobflow/library> でサンプルの場所を確認してください。<http://resources.efi.com/JobFlow/ConnectCookbook> も参照してください。

**メモ:** ワークフローではスクリプトの場所とホットフォルダーの場所のいずれかを指定できます。同じワークフローで両方を指定することはできません。管理者 > モジュール設定で Connect 用のデフォルト設定を指定できますが、これらは任意のワークフローについて編集可能です。

## ホットフォルダー設定

Connect モジュールの最初の使用はホットフォルダー経由で行われます。ホットフォルダーラジオボタンを選択し、入力ホットフォルダー（ジョブの移動先）と出力ホットフォルダー（結果の配置先）の場所を指定します。Fiery JobFlow がジョブの出現を無制限に待ち続けることがないように、処理時間の限界を指定することもできます。入力および出力場所は Fiery JobFlow サーバーを基準とした相対位置です。Fiery JobFlow はジョブを指定された入力フォルダーにコピーします。アクションが適用された後、ジョブは指定された出力フォルダーに配置されます。

以下の例では、入力および出力場所は Fiery JobFlow サーバー上のホットフォルダーです。

`c:\hotfolders\input`

`c:\hotfolders\output`

ネットワーク上の場所は、以下のようにネットワーク上の場所を示す標準の Windows 表記を使用することによってサポートされます。

`\\server\hotfolders\input`

`\\server\hotfolders\output`

**メモ:** Connect モジュールのホットフォルダーは Fiery ホットフォルダーではありません。

## スクリプト設定

スクリプトラジオボタンを選択し、使用するスクリプトの場所を入力します。

ユーザー定義のスクリプトをサポートするため、Fiery JobFlow ではスクリプトを使用するジョブを処理するために必要なすべての情報が提供されます。Fiery JobFlow では以下の引数が提供されます。

- 1 入力場所：Fiery JobFlow がファイルを処理のために使用可能にする一時的な場所。
- 2 出力場所：Fiery JobFlow が処理済みのファイルのコピーを待機する一時的な場所。
- 3 ジョブ名：Fiery JobFlow に表示されるジョブ名。
- 4 ワークフロー名：スクリプトが開始されたワークフローの名前。
- 5 プリフライト名：そのワークフローで生成された最後のプリフライトレポートの場所。

引数には名前がなく、引数を解釈する順序をスクリプトに伝える必要があります。

ジョブに対してスクリプトを実行する際にエラーが発生した場合、Fiery JobFlow ではジョブタブのエラージョブペインでエラーログへのリンクが提供されます。Fiery JobFlow ではスクリプトの修正方法に関する情報は提供されません。スキルのあるユーザーは、ログで提供される情報を使用してスクリプトを修正できます。

## 承認設定

ワークフローのレビューアを指定します。Fiery JobFlow ユーザーは Fiery JobFlow 内のジョブを承認可能な内部レビューアになることができますが、Approve Anywhere オプションを選択した場合には、Dropbox のジョブを表示します。

外部レビューアは、Fiery JobFlow に直接アクセスできず、Eメールで連絡を行います。ジョブを承認または拒否する招待状を受け取り、承認するジョブを送信すると、ジョブの内容と任意の Preflight または Correct レ

ポートを表示できます。ジョブを承認する Fiery JobFlow システム管理者が選択されると、そのシステム管理者は Fiery JobFlow 内で承認を行います。

- 1 内部レビュアーまたは外部レビュアーのいずれかを選択します。
- 2 内部レビュアーを選択すると、レビュアーに任意の場所でジョブのレビューをさせることができます。
- 3 レビューアーを選択フィールドで、レビューアーを一覧から選択して追加します。

内部レビュアーまたは外部レビュアーに最大 2 名のレビューアーを追加できます。これを行うには、ユーザー名、役割、電子メールアドレスを入力します。電子メールがレビューアーに送信され、レビューアーとして招待されます。管理者を選択すると、システム管理者は承認待ちのジョブ領域内でジョブを承認します。アイコンをクリックし、Fiery JobFlow 内で承認を行います。

## ジョブ情報

すべてのユーザーは、Fiery JobFlow インターフェイスでジョブを送信したり、ジョブの進捗を監視できます。

ジョブは様々なファイル形式で送信できます。変換モジュールがファイルを Adobe PDF に変換します。ジョブが送信されると、ジョブは直ちに選択されたワークフローで処理されます。

## ジョブの送信

ジョブを送信するには、デフォルトの場所である Smart Folders を使用するか、SMB、FTP、sFTP、Dropbox を使用したり、ドラッグ&ドロップ操作を使用したりできます。

SmartFolders は、Fiery JobFlow のインストール時に、空き容量の多いコンピュータードライブにルートフォルダーとして自動的に作成されます。Fiery JobFlow にワークフローを作成すると、SmartFolders フォルダー内に、ワークフロー名と同じ名前の対応するフォルダーが作成されます。SmartFolders はネットワーク上で共有され、ネットワーク上のすべての Windows または Mac コンピューターから SMB でアクセスできます。IP アドレスやドメイン名については管理者に確認してください。コピー&貼り付けまたはドラッグ&ドロップ操作を使用して、ジョブを特定の SmartFolder に送信できます。

それ以外にもさまざまな場所からジョブを送信できます。

- Dropbox
- SMB
- FTP
- sFTP
- コンピューターデスクトップから、Fiery JobFlow を開いているブラウザーへのドラッグ&ドロップ操作。

これらの場所は、管理者がアカウント設定ウィンドウから設定し、それぞれの種類について複数の場所を追加できます。完了したジョブとエラーになったジョブの両方を任意の場所にアーカイブできます。

ジョブは、1 つのファイル、フォルダー、またはアーカイブ (.zip ファイル) として送信できます。複数のファイルが含まれるフォルダーまたはアーカイブを送信すると、それらのファイルは Fiery JobFlow によって 1 つのジョブに結合されます。ファイルのマージは、ファイル名/ジョブ名のアルファベット順に行われます。フォルダーは、Dropbox 以外の入力ソースに送信できます。アーカイブや単一ファイルは、すべての入力ソースに送信できます。

## ジョブチケット

Fiery JobFlow チケットは、ユーザーが単純なテキストベースのチケットを使用してジョブを送信することを可能にする Fiery JobFlow Base 内の機能です。ユーザーはこれにより、ジョブの順序、ジョブごとのコピー数、およびジョブをマージするかどうかを定義できます。

Fiery JobFlow チケットは、コンマによって値が区切られたテキストファイルです。現在、Fiery JobFlow では 2 つのカラム（ジョブの場所とコピー数）がサポートされています。ヘッダーを追加したりカラムに名前を付けたりする必要はありません。Fiery JobFlow では、ジョブの場所がカラム 1 に、コピー数がカラム 2 にあると常に想定しています。//で行を始めることにより、チケット内にコメントを追加できます。コメント行のすべての内容は Fiery JobFlow で無視されます。チケット内にアクションを追加することにより、ジョブをマージするよう Fiery JobFlow に指示できます。アクションの先頭には#文字を付けます。現在、Fiery JobFlow では#merge コマンドだけがサポートされています。

下で使用されているリソースは次の場所で見つけることができます。<http://resources.efi.com/jobflow/library>。

ローカルフォルダーまたはネットワーク上の場所からジョブを取得してジョブごとのコピー数を設定するチケットの例：

```
// Filename, NumCopies
c:\%folder%\Bedding Flowers.pdf,10
c:\%folder%\Direct Sow Flowers.pdf,10
c:\%folder%\Flowering Bulbs.pdf,5
\\%networkdrive%\Roses.pdf,20
```

チケット内のジョブをマージし、マージされたジョブのコピー数を設定するチケットの例：

```
// Filename, NumCopies
#merge,10
c:\%folder%\Bedding Flowers.pdf
c:\%folder%\Direct Sow Flowers.pdf
c:\%folder%\Flowering Bulbs.pdf
\\%networkdrive%\Roses.pdf
```

ジョブがマージされる場合、Fiery JobFlow ではマージされるすべてのジョブの最初のページについて、自動的にブックマークが追加されます。ブックマークのタイトルは、ジョブ名からファイル拡張子を除いたものです。これらのブックマークを Fiery JobMaster で使用すると、自動的にタブを追加できます。

チケット内のジョブをマージし、マージされたジョブのコピー数を設定するチケットの例。ジョブとチケットはフォルダーまたはアーカイブとして送信されます。

```
// Filename, NumCopies
#merge,10
Bedding Flowers.pdf
Bedding Flowers.pdf
Flowering Bulbs.pdf
Roses.pdf
```

**メモ：** フォルダーまたはアーカイブが送信された場合は、自動的にすべてのジョブがマージされます。  
#merge コマンドを追加すると、マージされたジョブのコピー数を定義できます。

## 接続 モジュールでの Fiery JobFlow の使用

Fiery JobFlow チケットを Connect モジュールとともに使用する際は、いくつかの制限があります。

以下の点に留意してください。

- Fiery JobFlow によって追加の処理が行われる前にスクリプトで Fiery JobFlow チケットを編集するには、チケットのファイル拡張子を.csv から別のもの（例えば、.ticket）に変更する必要があります。.csv の拡張子を持つチケットは、入力ソースモジュールによって処理されます。これを防ぐ唯一の方法は拡張子を変更することです。
- スクリプトによってチケットが処理された後、チケットを正しい拡張子に戻して別のワークフローに移動する必要があります。変換モジュールは Fiery JobFlow チケットを処理することができません。

## ジョブの監視

ジョブタブで概要またはすべてのジョブを選択してジョブを監視します。

概要： 進行中のジョブ、エラーのあるジョブ、または完了ジョブのリアルタイムの状況を表示します。削除アイコンをクリックして、エラーのあるジョブ、または完了ジョブを削除できます。進行中、キューに入っている、または承認待ちのジョブを削除したい場合は、ジョブをキャンセルしてから削除します。

**メモ：**概要タブには、ビューやレポートを表示するためのリンクが示されています（ワークフロー内の Fiery Preflight、Preflight、または Correct モジュールを使用するジョブの場合）。[ジョブの表示](#)（20 ページ）および[ジョブレポートの生成](#)（21 ページ）を参照してください。

すべてのジョブ： エラーのあるジョブ、進行中のジョブ、キューに入っているジョブ、完了ジョブ、および承認待ちのジョブのカテゴリにあるジョブの詳細を表示します。入力ソース、および送信日または完了日が表示されます。ワークフローで Fiery Preflight、Preflight、または Correct モジュールが使用されるジョブでは、レポート表示リンクが表示されます。

すべてのジョブでは、ジョブ検索クエリを保存して、頻繁に使用するジョブを管理したりアクセスできます。保存されている検索は、ユーザごとに保存されます。

再送信：処理済み（完了済み）ジョブを出力場所に再送信できます。この機能では、ジョブを再送信する必要はありません。そのようにするには、ジョブ > 概要 > 再送信またはジョブ > すべてのジョブ > 完了ジョブ > 再送信を選択します。

再試行：再試行アクションは失敗したジョブで使用できます。失敗したモジュールからジョブを再送信する場合、ジョブ > 概要 > 再試行またはジョブ > すべてのジョブ > エラーのあるジョブ > 再試行を選択します。Fiery JobFlow は失敗したモジュールを実行し、ジョブが合格すると、そのジョブを次のモジュールに移動します。この機能では、ジョブを再送信する必要はありません。

## ジョブの表示

Fiery JobFlow に送信されたジョブの内容について、サムネイルまたは全体を表示します。

- 1 ジョブタブを選択します。
- 2 概要タブを選択します。
- 3 表示したいジョブのジョブの表示をクリックします。
- 4 ジョブ全体を開くには、サムネイルプレビューウィンドウのいずれかのページをクリックします。

## ジョブレポートの生成

エラーとなったジョブや処理が成功したジョブのレポートを表示できます。

エラーによってジョブの処理が失敗した場合、ジョブタブのエラージョブのリストに表示されます。Fiery Preflight、Preflight、Correct モジュールのいずれかでジョブが失敗した場合、Fiery サーバーまたは Enfocus PitStop Pro がそれぞれ生成したレポートを表示できます。ジョブで使用されたワークフローを表示するには、ジョブタブのジョブ名をクリックします。

- 1 ジョブタブを選択します。
- 2 概要タブを選択します。
- 3 エラージョブのリストから失敗したジョブを選択するか、完了したジョブのリストから処理が成功したジョブを選択します。
- 4 レポートを表示をクリックします。  
すべてのジョブタブからもレポートを表示できます。

